

2) 被害者の声についてのDVD

(1) 原典紹介

DVD タイトル	「手渡したいのは青い空」
編著者	西淀川公害患者と家族の会
製作年度	映像：1998年（平成10年）10月 字幕：2008年（平成20年）3月
製作時間	16分
監修	環境省請負業務 「平成19年度大気汚染経験情報発信事業」
中国語翻訳	丁訓侠氏
中国語翻訳協力	金玲氏
字幕製作協力	株式会社ダイメディア
目次	[1] プロローグ [2] 公害の中の一人の少女（エピソード①②③） [3] 立ち上がった住民 [4] 自動車排ガス公害の深刻化 [5] 政府・財界の反撃とそれへのたたかい [6] 運動のたかまり [7] 判決と運動 [8] 和解 [9] 国・公団とのたたかい

(2) 内容

- ・ DVD のおもな内容
 - ・ 1960年代の公害がひどかった時代の様子
 - ・ 公害患者の生涯、生活実態、被害の様子（1人の女性の生死を追う）
 - ・ 公害反対運動が広がる様子
 - ・ 公害患者の治療状況（酸素吸入）
 - ・ 自動車排ガス公害の深刻さ
 - ・ 補償制度の改悪
 - ・ 裁判の提訴と経過（何を求めて提訴したか）
 - ・ 署名の呼びかけ
 - ・ 一次判決の結果
 - ・ 世界に訴える国際活動
 - ・ 西淀川再生プランの作成
 - ・ 被告企業との和解
 - ・ 国、阪神高速道路公団との和解
 - ・ あおぞら財団の設立
 - ・ 運動と裁判のスローガン「手渡したいのは青い空」

(3) 翻訳原稿 (日本語版)

・DVD「手渡したいのは青い空」日本語ナレーションシナリオ

■タイトルバック		
画面 (映像)	時間	音声 (ナレーション)
青い空・白い雲 (実写) 「手渡したいのは青い空」 (青い空バックにレモンイエローの文字)	8 秒	「手渡したいのは青い空」
(1) プロローグ		
青い空・白い雲からゆっくり	11 秒	「手渡したいのは青い空」、それは私たちの願いです。
オーバーラップして猛煙を吹き上げる	19 秒	猛煙を吹き上げるのは、西淀川区に隣り合う尼崎市の関西電力発電所です。 1960 年代から 70 年代の初めにかけての「高度経済成長時代」。
此花区の工場群		西淀川を取り囲むように連立する煙突、
関西電力尼崎発電所 (1963 年) 木津川河口の工場群 (1961 年)		そこからまき散らされる粉塵 (ふんじん) や亜硫酸ガスが、空をふさぎこみました。
空から見た西淀川	47 秒	太陽が消え、空は真っ赤に染まり、昼間なのに、夜のようなスモッグの街を、電車や車はライトを、人はマスクをつけて移動しました。
著書「西淀川公害」	1 分 5 秒	飛べなくなったスズメが、力なく地べたに這いつくばり、朝顔が一夜にして枯れ果てました。そして、大気汚染による緩慢な殺人が進行していったのです。
(2) 公害に苦しむ一人の少女①		
南竹照代さん ひな飾りの前で・・・	1 分 15 秒	南竹照代さんは、1956 年生まれ。
幼児のころ		かわいい盛りの照代さんにも、公害は容赦なく襲いかかりました。
小学校時代の照代さん	1 分 26 秒	小学校 2 年で発病、ぜん息との長く苦しい闘いがはじまり、学校へ通える日が少なくなっていました。

(3) たちあがった住民		
画面 (映像)	時間	音声 (ナレーション)
猛煙をあげる工場群	1分 39秒	15歳までの子どものうち、9人に1人がぜん息にあえぐという、瀕死のまちとなった、西淀川。
水俣病患者	1分 47秒	膨大な富の蓄積の裏側で、公害による人と自然の犠牲が広がっていったのです。
大阪市前での座り込み	1分 55秒	人々は、生きるために立ち上がりました。
激励する沓脱タケ子さん		公害反対運動は、燎原の火のように、広がっていきました。
黒田一知事の当選 (1971年)	2分 9秒	自治体を変え、工場排煙の規制や公害患者の救済制度が、怒りと運動におされるように、つくられていきました。
イタイイタイ病判決	2分 19秒	イタイイタイ病、新潟水俣病、熊本水俣病、四日市公害。
四日市公害判決		1970年から相次いで出された被害住民勝訴の判決は、公害に反対する世論と運動を大きく励ましました。
患者の酸素吸入	2分 37秒	西淀川公害患者と家族の会が産声を上げたのは、ときに、1972年10月29日でした。
吸入する患者	2分 47秒	公害発生企業とそれを放置した行政の責任の追及。患者会は、加害責任を明らかにした、被害者救済の制度を求めて大阪市と交渉、全国に先駆けて企業の負担による被害者救済制度を勝ち取ったのです。
プラカードを持つ子ども 「おかあさん、ボク、夜の 発作がこわいよ」	3分 6秒	汚染者負担の原則のもと、公害健康被害補償法がつくられたのは1973年。しかし、西淀川の患者は3,000人を超えて増え続けました。
(4) 公害に苦しむ一人の少女②		
中学校入学式 母親とともに・・・	3分 21秒	中学から高校へ。 誰もが輝く乙女の時代を、照代さんは、絶え間なく襲いかかる発作に、エビのように体を丸めて、ベッドの上で耐え続けました。
		そばに人が近づくと「来ないで」と頼みました。 「空気が減るから」。 「空気を両手でつかみ取って、押し込んでやりたい」、母、田鶴子さんの思いは痛切でした。
欠席通知で埋まった生徒手帳	3分 49秒	彼女の生徒手帳は、欠席と早退の連絡で埋まりました。

(5) 自動車排ガス公害の深刻化		
画面 (映像)	時間	音声 (ナレーション)
車、車、車	3分 57秒	病気の深刻化の背景には、自動車排ガスによる新たな公害の発生と広がりがありました。 国民の生命と財産を守るはずの国は、公害対策を強化するのではなく、規制を緩め、都市部での、高速道路建設を押しすすめました。
高速道路の橋桁に登って抗議する小角さん	4分 17秒	1975年11月、小角岩一（こすみやいち）さんは、建設中の高速道路の橋脚にボートでたどりつき、よじ登りました。
小角さんをクローズアップ（ズーム）	4分 27秒	「これ以上、公害を広げるな」と、建設反対を訴えて二晩座り込み、警官が引きずりおろそうとすると、ガソリンをかぶり、火をつけました。
(6) 公害に苦しむ一人の少女③		
再び南竹照代さん	4分 42秒	うちつづくぜん息の発作で欠席が重なり、卒業までに4年かかりました。 高校生活最後の年、照代さんは特級認定患者となりました。
薬袋に書いた日記	4分 56秒	病院暮らしの中で書いた日記。心細く、苦しい日々がつづられています。
日記ノート	5分 5秒	「熱はいつ下がるのだろうか。とにかく、もう少し熱が下がり、よくなることには、退院できない。
卒業時の寄せ書き	5分 15秒	そうわかっていても学校へ行きたい。卒業できるだけの日数がほしい。」
(7) 政府・財界の反撃とそれへのたたかい		
新聞記事 「公害補償見直し・・・」	5分 26秒	被害者救済のための制度は、うまれた直後から、財界の執拗な攻撃にさらされました。 「公害は終わった」のキャンペーン、「見直し」という名の補償の打ち切り、容易に減らすことができない大気汚染物質 NO ₂ は、基準そのものを緩和するという乱暴なやり方でした。 裁判闘争への決意は、公害環境行政の相次ぐ後退と逆風の中で、固められていきました。
裁判提訴を決めた、大和田小学校の臨時総会	6分	1977年8月7日、猛暑の中、大和田小学校で開いた臨時総会には、1,000人の患者とその家族がつめかけました。

画面（映像）	時間	音声（ナレーション）
訴えを読む西田君	6分 10秒	「みなさん、この裁判は長期になるでしょう。この中の何十、何百人は死ぬかもしれない、しかし、子どもらと人間の未来がかかっているこの闘いをやり抜こう。」という、森脇君雄事務局長の呼びかけに、参加者は、拍手と涙でこたえました。
	6分 29秒	西淀川公害訴訟がスタートしたのは、翌、1978年4月20日。第一次原告112名、ベツの照代さんもその1人でした。
		財界は政府を動かして、被害者救済制度を行政改革の対象にしました。
座り込み直訴	6分 49秒	臨時行政調査会が、指定地域の解除をねらって、補償法の見直しをすべりこませたのは、1982年12月。
		正月あけ10日からの、臨調前の直訴座り込み行動には、600人の患者がつめかけました。
		ゴボウ抜きに耐え、患者たちの命綱を守る闘いは、粘り強く続けられました。
（8）公害に苦しむ一人の少女の死		
遺影を持って訴える南竹さんの母	7分 17秒	提訴から4年目、照代さんは24年のあまりにも短い人生を閉じました。
		「葬式するとき、お棺にいれられたあの子をみて、わたし、『ハァー』と思いました。大きいんです、思っていたより、背が。いつも苦しいゆうて、かがみこんだり、うずくまるみたいな格好ばかりしていましたからね。」
（9）運動のたかまり		
なのはな行動	7分 49秒	患者たちは、弁護士とともに、裁判の勝利を目指して地元、大阪はもとより、全国のさまざまな人びとに被害の実態を訴え、街頭にたつて宣伝し、署名をよびかけました。
街頭署名の呼びかけ （患者、弁護士）	8分 3秒	裁判を勝利に導くために欠かせなかったのは、多くの学者、医師の献身的な協力でした。
		被害者を先頭にした粘り強い運動は、人を変え、市民の中に共感が広がりました。
		提訴から10年目の1988年3月18日、中の島公会堂を埋め尽くした集会は、勝利を引き寄せる出発点となりました。

画面（映像）	時間	音声（ナレーション）
130万を超えた署名	8分 31秒	21年に及ぶ裁判には、130万人を超える署名が届きました。
出張尋問に答える里邑さん 患者さんの写真（実藤さん、 岡前さん、大島さん）	8分 37秒	一方、長期にわたる裁判に、「命あるうちに」の願いもむなしく、200人を超える原告が、判決の日を迎えることなく、亡くなりました。
患者の願いを再生プランに	8分 57秒	一次訴訟の判決の前に、公害患者の願いを形にした「西淀川再生プラン」を発表しました。
再生プラン発表会		「子や孫たちに青い空とともに、住みよいまちを」、とのユニークな提案は、国の内外、各方面から注目されました。
（10）判決と運動		
判決集会	9分 20秒	1991年3月29日、大阪地裁は企業の加害責任を認める原告勝訴の判決を下しました。
関西電力企業交渉	9分 32秒	大企業が、よってたかって、公害をまきちらし、健康を破壊した責任を認めて、償うよう命じたのです。
		しかし、道路公害の、国と公団の責任はみとめず、公害の差し止めも退けました。
なのはな行動	9分 49秒	判決後の「なのはな行動」には、6,000人が参加し、企業、国、公団への交渉に臨みました。
		深夜に及ぶ交渉で、被告企業は謝罪し、交渉の継続を約束しました。
扉をとぎす関西電力	10分 7分	しかし、被告企業の中でも最大の加害者、関西電力は、約束を守らずに交渉の門を閉ざして、患者の望む「一日も早い解決」を妨げました。
ビラまき	10分 20秒	患者と支援の仲間は、関西電力に対する抗議行動を積み上げました。毎週ビラを配り、署名を訴え、座り込みも重ねました。
世界に訴える国際活動 （ブラジル・リオサミット）	10分 38秒	株主総会での直訴、ブラジルでひらかれた国連環境会議への参加など、国際的な支援を広げる活動にも積極的に取り組みました。
生活協同組合のお母さん たち	10分 49秒	中でも、日々の暮らしを通じて、平和や健康問題に関心をよせる生活協同組合をはじめとする、消費者の中に、支援と共感の和が広がりを見せたことが、大企業を窮地に追い込んでいきました。
再生プラン	11分 6分	また、西淀川再生プランを具体化したまちづくりの提案も、解決の重要なテーマになりました。

(11) 和解		
画面（映像）	時間	音声（ナレーション）
企業との和解調印式	11分 16秒	1995年3月2日、被告企業9社との和解が成立、各社のトップが、うちそろって、初めて頭を下げたのです。 総額39億9千万円、患者への賠償金とともに、患者の健康回復や生活環境の改善、西淀川地域の再生、まちづくりのために、15億円を拠出することが合意されました。
集会	11分 42秒	今は亡き当時の原告団長、浜田耕助さんは、和解の確認式で語りかけました。
デモ		「本日の和解による終結の確認式は、西淀川の公害問題の終焉を意味するものではありません。
新聞記事		むしろ、被告企業のみなさんと、大気汚染被害者や地域住民が協力して、大気汚染のために破壊された西淀川区を、人が安心して住めるまちに再生していく、第一歩だと思います。」
(12) 国・公団とのたたかい		
新聞記事「国・公団に勝訴」 (1995年)	12分 14秒	勝利への流れは、国、公団相手の道路公害裁判にも受け継がれ、1995年7月5日、大阪地裁は、二次・四次原告に対し、自動車排ガスによる健康被害を認めて、損害賠償を命じる画期的な判決を下しました。
デモ、公団との交渉	12分 33秒	1998年8月の川崎の判決では、さらに前進させています。
あおぞら財団設立準備会		「公害のない、美しいまちを、子や孫に手渡したい。」
事務所開き		1996年9月、患者の願いをかなえる活動を本格化しようと、和解金の一部を基金にして、「公害地域再生センター・あおぞら財団」ができました。
設立記念のつどい 「財団設立」新聞記事	13分 2秒	環境庁許可のこの財団は、公害によって奪われた自然、健康、コミュニティ再生のプランを被害者の目の高さから提案し、そして、その事業は、多くの市民・行政・企業のパートナーシップですすめていこうとしています。
たんけん隊		財団は若いスタッフを先頭に、「たんけん隊」によるまちあるき、

画面（映像）	時間	音声（ナレーション）
原風景・原体験のヒアリング	13分 30秒	「原風景・原体験の聞き取り調査」をはじめ、地域資源の発掘やアンケートによる基礎調査をすすめています。
冊子「西淀川道路再生プラン・緊急提言」		また、患者会の委託で道路問題の解決のための緊急提言や再生プランをつくりました。
「道を考えるシンポジウム」		地域の再生に取り組む、こうした財団の地道な活動が、国・公団との和解を引き寄せるうえで、大きな役割を果たしました。
（13）エピローグ		
国・公団との和解（1998年）	14分 10秒	1998年7月29日、国・公団との和解が成立。21年目の勝利でした。
		和解によって裁判は終わりますが、道路公害のない明日、西淀川を、住みよい、そして、にぎわいのあるまちとして再生する事業は、はじまったばかりです。
子どもの笑顔	14分 41秒	「手渡したいのは青い空」、この想いは、今も変わることはありません。
		私たちはこれからもずっと歩み続けます。今度は子や孫たちと一緒に、青い空を引き寄せるために。
■クレジット		
資料映像提供	15分 18秒	NHK、関西テレビ、読売テレビ
音楽		かわさきゆたか、秋元慎
編著者		西淀川公害患者と家族の会
製作年度		映像：1998年（平成10年）10月 中国語字幕：2008年（平成20年）3月
製作時間		16分
中国語翻訳		丁訓侠
監修		環境省請負業務 「平成19年度大気汚染大気汚染経験情報発信事業」
字幕編集協力		株式会社ダイメディア
製作者		財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）